

報 告

第102回研修会「サマーセミナー2003」報告

研修部

日 時：2003年9月5日（金）～6日（土）

場 所：コープ・イン・京都

参加者数：延べ30名（会員外2名）

昨年と同じく、サマーセミナーとして二日間にわたって開催された。

全体のテーマは「病院図書室の将来像」、第一日目の午前は「患者アドボカシー」を取り上げ、病図協会長、京都南病院 院長の清水聡氏に医療者の立場から患者アドボカシー活動における司書の役割について講演をいただいた。また、福井県済生会病院図書室の藤井梨枝氏より患者さんへの医学・医療情報公開の実践の事例



報告の後、HCRM 研究会代表幹事、和田ちひろ氏にお越しいただいて、患者アドボカシーと病院図書室との連携の可能性についての講演が行われた。患者アドボカシーという言葉はまだ周知されていないが、これからの医療を考える上で、キーワードの一つとなっていくと思われる。

午後からは、スモールワークショップが行われた。それぞれ興味あるテーマ「新医師臨床研修制度」「病院医療機能評価」「EBM とライブラリアン」のグループに分かれ、まず基本的な「ワークショップの進め方」の手ほどきを受けた後、各テーマについて討議し、最終結論にいたった経過を発表した。どのグループも活発な議論が行われ、参加者同士のコミュニケーションもとれて、今後の図書室運営のために前向きな結果を得られたように思う。

第二日目は「文献検索システムの新しい動向」とし、医中誌 WEB Ver. 3、J Dream、PubMedの使い方について、講義があった。それぞれ、検索システムとして進化している様子がよくわかり、今後の参考となった。

（文責：安東 正子/姫路赤十字病院）